

『がん相談対話外来』の結果

【がん相談対話外来の概要】

本外来は、がん患者の方々の目線にて、そのおかれている状況の中で受けることができる最良の医療について、患者や家族の方々と対話をしながら考えていくことを目的としたものであり、7月12日から開設している。

本外来では、医師・看護師が、患者や家族と30分程度の時間をかけて相談・対話を行いながら、説明をしていく。

続いて、医師に聞けなかった悩みや分かりにくい説明が無かったか、看護師だけとの面接を通じて確認し、再び医師も同席して、患者の悩みや相談に応えられるよう説明を行う。必要に応じて、がん専門相談員が同席したり、精神腫瘍医に紹介を行う。

このような体制により、患者や家族の方々が、医師、看護師、がん専門相談員、精神腫瘍医とも相談を行いながら、がんの治療について十分に話し合っ、がん患者や家族の方々が納得した選択ができるよう支援している。

【利用状況】（別紙1）

7月12日から開始し、9月10日までの利用者数は、304件であり、呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、泌尿器・後腹膜腫瘍科に関するものが多かった。

【相談・対話の内容】（別紙2）

8月2日（月）-8月13日（金）に利用した64件について相談内容を分析し、がん相談対話外来の利用に至った理由を検討した。利用者背景は図1、対応内容については図2に示す。

図1. 相談者背景 (%) 8/2-8/13 n=64

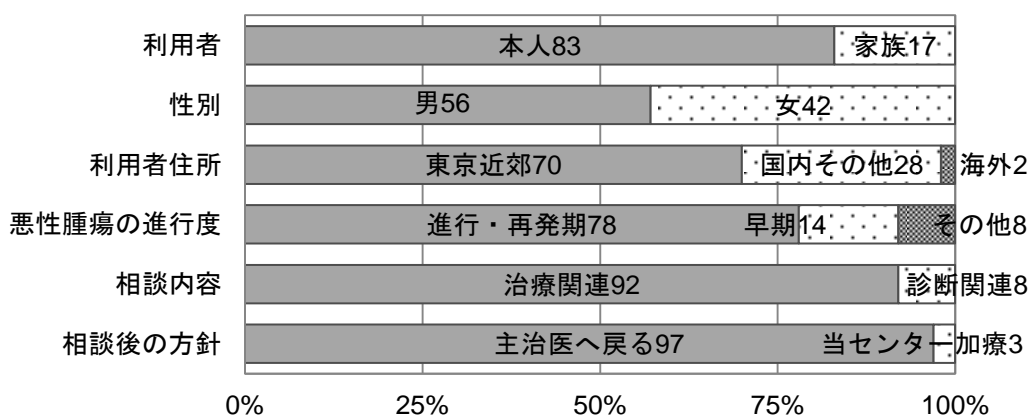
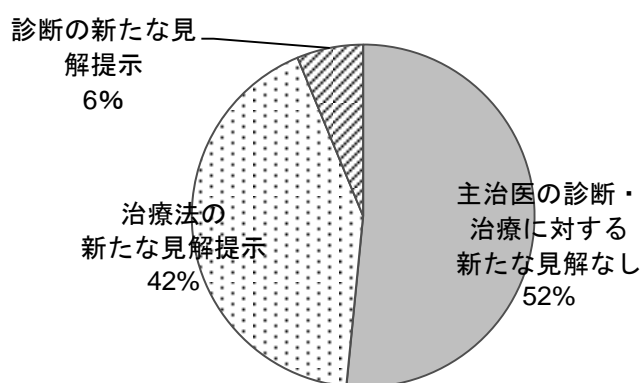


図2. 対応内容 (%) 8/12-8/13 n=64

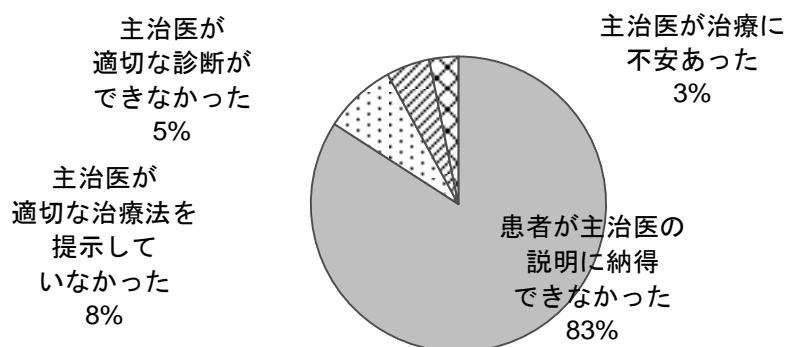


他： 積極的治療の中止に関する内容 6件 (9%)

- ・ 利用者の悪性腫瘍の進行度は、進行・再発期のものが78%であり、治療方針に関する相談が92%であった。
- ・ がん相談対話外来での対応は、「治療法に関する新たな見解を提示したもの」が42%、「診断に関する新たな見解を提示したもの」が6%、「主治医の診断・治療方針に新たな見解を示す必要が無かったもの」が52%であった。
- ・ がん相談対話外来を受診後に、当センターで加療することになったものは3%であった。

がん相談対話外来を利用するに至った理由については図3に示す。

図3. 相談・対話外来に至った理由 (%) 8/2-8/13 n=64



- ・ 主治医の診断・治療方針に問題は無かったが、患者が主治医の説明に納得できていなかったもの 83%
- ・ 主治医が適切な治療法を提示できていなかったもの 8%
- ・ 主治医が適切な診断ができていなかったもの 5%
- ・ 主治医が自分の治療に不安を抱いていたもの 3%

【利用者の感想】 (別紙3)

がん相談対話外来を利用した患者・家族の方々に、利用後にアンケートを実施した。利用者の感想については図4、外来看護師の同席することについては図5に示す。

図4. 利用者の感想 (%) 7/12-9/10

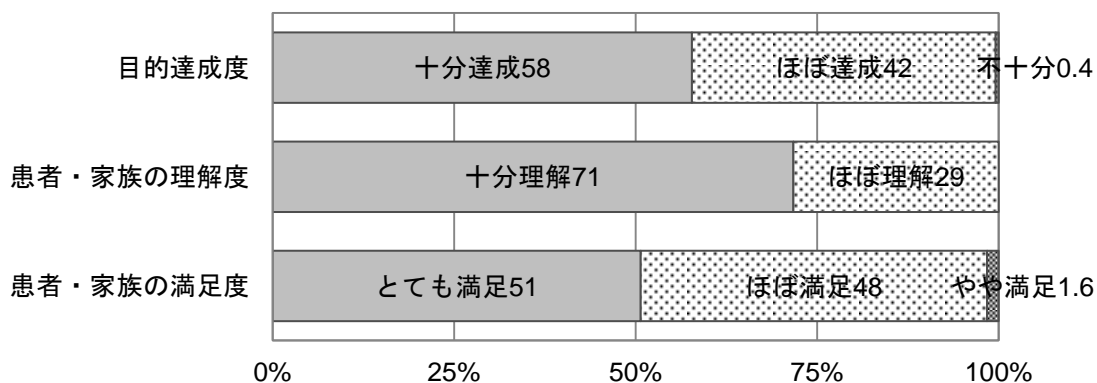
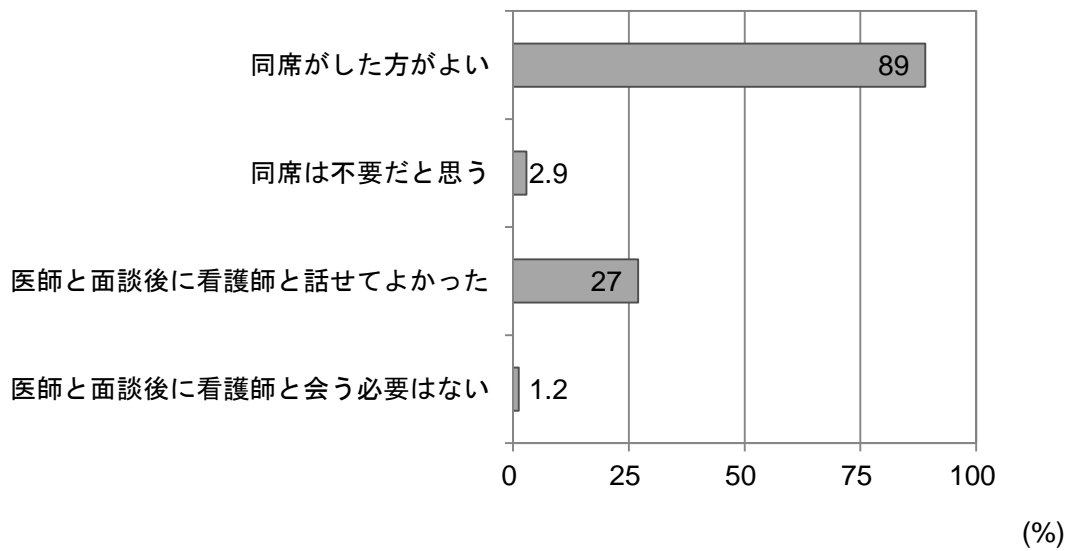


図5, 看護師の同席について (%) : 複数回答 7/12-9/10



ほぼ全ての方が目的は果たすことができたと考えていた。全ての方が医師の説明が理解できたと回答しており、ほぼ全ての方が満足していた。

また、外来に看護師が同席することについて、89%の方が同席していたことが良かったと答えた。